

医療器具うるまに工場

エフエムディ 来年稼働 海外へ出荷



医療機器の研究開発・製造・販売を行うエフエムディ（埼玉県、寺師副社長）が、心臓循環器分野で主流のカテーテル治療に不可欠な医療機器「ガイドワイヤー」の製造工場をつるま市の国際物流拠点産業集積域内に建設している。将来的に沖縄を主力工

場として拡充させ、海外展開

を目指す。沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は10日、同社の工場建設資金として5億5千万円を融資したと発表。「沖縄のものづくり産業の振興につながる」と期待感を示した。

「ガイドワイヤー」は、動脈硬化によって血管の壁が厚くなったり硬くなったりした部分の治療に使用するカテーテルを誘導する医療機器。同社は外資系大手医療機器メーカーのポストン・サイエンティフィックジャパンと独占契約を結ぶなど高品質の技術力

カテーテル手術に不可欠な「ガイドワイヤー」を手にする寺師副社長（中央）ら10日、那覇市・沖縄振興開発金融公庫

に定評がある。

カテーテル治療は患者の身体的負担が少ないため、世界的にニーズが高まっているが、現在の埼玉と愛知の工場では製造が追いついていないという。現在、西工場で約20万本を製造しているが、最大でも35万本が限度といい、沖縄工場新設で合計100万本の製造を目指す。

1万3200平方メートルの土地に1階建て床面積2970平方メートルの工場を建設する。当面は製品の組み立てなど中間的な工程を行う予定だが、2020～21年度をめどに敷地内に別の新工場を建設。最終工程まで行い、沖縄から直接、海外向けに出荷することを計画している。

工場は先月23日に着工、18

年1月から稼働を目指す。当面は約20人を雇用する予定だが、最終的に120～130人の雇用を見込む。

寺師社長は「海外などから注文が相次いでいるが、人手

不足などで供給が追いついていない状態。新工場建設で安定供給を図りたい」と意欲を見せた。

同公庫の慶田康成課長は「ものづくり産業の振興に弾

みになる。高度な医療人材の育成や関連産業の集積も期待される」と述べ、「将来的に沖縄科学技術大学院大学や沖縄高専とも提携できれば」と話した。

医療器製造、うるま市へ

エフエムディ 海外視野に雇用130人

血管を通過させて病変部までカテーテルを誘導する医療機器「ガイドワイヤ」を製造するエフエムディ（埼玉県、寺師剛社長）は10日、うるま市の国際物流拠点産業集積地域に自社工場を建設し、2018年1月にも製造を始めることを発表した。当初は埼玉と愛知の工場を手掛ける製品の中間工程を沖縄で行うが、2021年にはコーティングまで施して最終製品に仕上げる工場を増設し、海外も視野に沖縄を拠点にした製品出荷を計画する。



ガイドワイヤーの製造で沖縄に工場進出するエフエムディの寺師剛社長（中央）と、沖縄振興開発金融公庫の井上慧主任（左）と慶田康成融資第二部課長（右）＝10日、那覇市の沖縄振興開発金融公庫

国内や米国の医療機器販売大手との取引で年々発注量が増えているが、主力の愛知工場では従業員の採用が難しく、若年労働力の確保と生産能力の拡大を目的に沖縄への進出を決めた。同社は現在、年間20万本の

ガイドワイヤを製造しているが、沖縄に新工場を整備することで年100万本まで増産を目指す。

10日に那覇市の沖縄振興開発金融公庫で会見した寺師社長は「沖縄は若年層が多く人口も増えており、特区の税制優遇や行政の助成に魅力を感じた。2段階の工場建設を計画しており、海外出荷も見据えて沖縄で完成品まで製造できるようにする」と述べた。

沖縄工場の整備では、沖縄公庫が5億5千万円の融資を決めた。中間工程を担う工場は6月下旬に着工しており、完成後は約20人の従業員でワイヤーの先端にプラチナ、ステンレスコイル

を取り付ける。最終製品にまで仕上げる製造工場を建設した段階で、120～130人の雇用規模を見込んでいる。

医療用のガイドワイヤは、ステンレスやニッケルチタン合金を加工した直径0.2～0.4ミリの細さの器具。心筋梗塞などの心臓循環器や脳血管内治療で管

状のカテーテルを体内に通す際に先行して使用される。今後、中国などでカテーテル手術の普及に伴い、ガイドワイヤも需要増が見込まれるという。

エフエムディは2003年創業の新興企業。高い技術力や医療現場の要望をくみ取った柔軟な製品開発が評価されている。